

2025 年 4 月 14 日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

慢性肝疾患患者における体組成検査による低栄養スクリーニング法についての検討

研究の概要

【背景】慢性肝疾患（CLD）は、多様な原因により肝臓に線維化が生じる疾患ですが、栄養状態の不良は CLD 患者の予後や QOL の低下と密接に関連しています。現在、低栄養をスクリーニングするための様々な指標が提言されており、肝硬変患者においても定期的な栄養評価が重要と考えられています。しかし、低栄養をスクリーニングするための多くの方法は複雑な計算式や複数の血液検査結果を必要とするものであり、CLD 患者の栄養状態を評価するにあたり、より簡便で迅速な指標が求められています。

生体電気インピーダンス分析（BIA）は、体重や筋肉量を測定できる非侵襲的かつ簡便な方法ですが、近年、この BIA で測定可能な位相角（Phase angle, PhA）が栄養指標として注目されています。PhA は細胞膜の健全性や体内の水分分布を反映する指標であり、慢性疾患や栄養不良の指標である筋肉量や GLIM 基準と相関することから栄養状態や予後を予測する新たな指標となることが期待されています。CLD 患者における PhA の有用性を検討した研究はこれまでに報告されていませんが、他の慢性疾患においては PhA が栄養状態や予後の指標として有用であることが示されており、CLD においても簡便かつ客観的な栄養評価法として応用できる可能性があると考えられます。

【目的】

慢性肝疾患患者における PhA を測定し、筋肉量や GLIM 基準など従来の栄養指標との関連について検討することです。

【意義】

PhA が従来の栄養指標と相関することが明らかとなることで、PhA が CLD 患者における低栄養のスクリーニング方法の 1 つとなる可能性があり、簡便かつ非侵襲的に栄養状態を評価する新たな手段が確立される可能性があります。これにより、日常診療においても早期の栄養介入やリハビリテーションの開始が可能となり、CLD 患者の予後や QOL の改善に貢献することが期待されます。

【方法】

今回、後方視的研究として以下の検討を行います。

- ① 血液検査など栄養状態に関する情報を収集します。
- ② BIA 法における PhA 値を収集します。

③ 各栄養指標と PhA の相関について検討します。

対象となる患者さん

2022 年 1 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に長崎大学病院消化器内科にて慢性肝疾患と診断された 18 歳以上の入院患者さんにおいて、BIA 法による体組成測定が行われた方

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・患者背景：性別、年齢、Child-Pugh score（肝予備能指標）
- ・血液学的検査：白血球数、リンパ球数、赤血球数、血小板数、プロトロンビン時間
- ・血液生化学検査：AST、ALT、総ビリルビン、アルブミン
- ・体組成検査：体重、BMI、PhA、骨格筋指数（Skeletal muscle mass index）
- ・握力：スミドレー式握力計を用いて利き腕で 2 回測定し、最高値を採用する。
- ・各種栄養指標：上記結果を基に、GLIM 基準、GNRI、肝臓学会提言による低栄養の 3 項目を算出します。

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 5 月 15 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2028 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属：長崎大学病院 消化器内科

氏名：原口 雅史

住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1

電話：095（819）7481（医局）

情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止について】 長崎大学病院 消化器内科 原口 雅史 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7481 FAX 095（819）7482	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）	